

SUPPORTERS CLUB NEWS



友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL ART MUSEUM

〒039-25

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 62-5860

平成九年度 美術館事業計画を決定
国際写真サロン・春季二科展・県収集美術資料展等
鷹山宇一画集の刊行を予定 (開館三周年記念事業)

平成九年度七戸町立鷹山宇一記念美術館事業計画

4月26日(土)～5月5日(月)

「第57回国際写真サロン」 主催:全日本写真連盟 朝日新聞社

展示点数 130点(海外作品80点、国内50点)

プロ・アマ問わず応募作品の中からの入賞作品です。今回は6500点の応募がありました。日本から3423点、外国からは3077点の応募でした。

5月10日(土)～6月1日(日)

「春季二科展」「二科会青森支部展」 主催:二科会・二科会青森支部・美術館

現在中央画壇で活躍中の二科会会員の絵画・彫刻作品を展示します。

当館では今年で3回目、東北では当館だけの開催となっております。

なお5月18日(日)に昨年と同じく淡交会十和田支部の皆様による、お呈茶が予定されております。

6月10日(火)～6月22日(日)

「平成9年度県収集美術資料展」 主催:青森県教育委員会

青森県では、県立美術館建設に向けて毎年美術資料を収集しています。今回は平成8年度に収集した資料を中心に、七戸会場の地域性を加味した展示をします。

7月26日(土)～9月23日(火)

「開館3周年記念鷹山宇一の世界展」

8月1日をもって当館が開館3周年を迎えます。これを記念して「鷹山宇一」を様々な角度からご紹介します。油彩画の代表作品だけでなく、初期の油彩画、スケッチなどを一堂に集めることによって、現在までの鷹山宇一の創造の過程をたどります。なお3周年を目途に鷹山宇一画集を刊行する予定で作業中です。

国際写真サロン展について
全日本写真連盟・朝日新聞社主催の国際写真サロンは、写真の国際交流をはかるうと始められた写真展で、今年で五七回目を迎えます。今回は、海外五ヶ国より三〇七七点・国内より三四二点もの秀作の応募があり、この中から一三〇点が入賞の榮譽をうけました。

アマチュア作家にとつては一度はこの展覧会に入選することが夢で、大きな榮譽の一つとなっております。全日本写真連盟では写真文化の普及と国内のアマチュア写真家の育成のため国内各地で移動展を開催、好評を得ております。美術館の開館を機に、フオトしちのへ(全日本写真連盟七戸支部)ではこの移

動展を七戸で開催したいものと、交渉を重ねてまいりましたが、このたび実現することとなり大変喜んでおります。極めてレベルの高いこの写真展を、どうぞご覧いただくようお願いいたします。
全日本写真連盟青森県本部
事務局長 石田清剛
(友の会 理事)

春季二科展・県収集美術資料展 ボランティア・スタッフを募集

鷹山宇一記念美術館では、毎年好評をいただいております春季二科秀作展を、本年も社団法人二科会ほかのご協力により開催いたします。期間は5月10日(土)から6月1日(日)までで、期間中は休館日はありません。

本年も、パイン民芸資料館及び絵馬館回廊と美術館が一体となった展示が予定されており、例年以上に展示品と鑑賞者の安全のために、館内の監視にあたるスタッフが必要になると予想されます。またオープニングレセプションのお手伝いなどのスタッフも不足しております。

展示室監視等の簡単な仕事で、協力できる時間内で結構ですので本物の芸術に触れながらボランティア活動をしてみようと思ひの方はぜひ美術館までご連絡下さい。(TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860)

また引き続き開催予定の、平成九年度青森県収集美術資料展などボランティア・スタッフの必要な特別展が企画されております。友の会会員を始め多くの方々の、ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

館長日誌

より

美術館長

佐藤 巨

「十月」

秋山庄太郎先生の講演と

サイン会（6日）

秋山庄太郎写真展「女たちと花信（はなだより）」の期間中、秋山庄太郎先生にもおいで願って講演会とサイン会を開催しました。一般の入館前の9時から、展示室にマイクを持ち込み先生の写真に囲まれて楽しいお話をいただきました。百名余の写真フアンのため、小さいお声の時は後ろに届かないくらいでした。

東北美術館会議（山形県

天童市）に出席（24日）

新潟を含む東北各県から五十名余が一堂に集まり、情報交換を中心に会議を行いました。夜は萬鉄五郎記念美術館の千葉館長、福島現代グラフィックアートセンターの坂東副館長さん、新潟市美術館の斎藤館長さんと同室し深夜までお話が尽きませんでした。

「十一月」

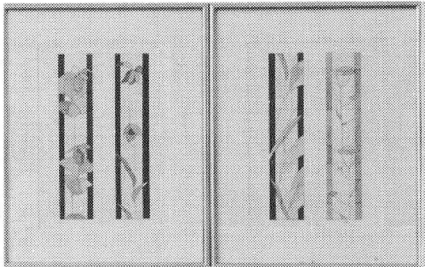
友の会研修旅行 美術館

二つ（9日）

会員33名が、バスをお借りして岩手県雫石町の「御所湖川村美術館」、盛岡市内中津川河畔にある「深沢紅子野の花美術館」を見学しました。

池内浩さん（故池内康氏の弟さん）からステンドグラスの原画をいただく（22日）

七戸町にある施設の落成式においてにらされた池内さんから、ランプ館ステンドグラスの原画八点をいただきました。額装して回廊に展示いたします。



ロールスクリーン四基設置（25日）

展示室への強い西を防ぐため、大ガラス2枚を被うスクリーンを設置しました。

ロビーに書架を設置（26日）

多くの方々から御寄贈いただいている立派な図書資料が満載です。どうぞ御活用を。

「十二月」

国道側に美術館の看板設置（15日）

国道四号線を走る車から見えるように看板を設置しました。理事会 画集編集委員決まる（21日）

今年八月一日で当館がオープン三周年を迎えますが、これを記念して鷹山先生の画集を刊行することになり、その編集委員が次のように決まりました。

「編集委員」

- 佐藤巨（委員長）、鷹山ひばり、濱中達男、石井淳夫、戸館昭吉、山本洋一、盛田駿造、若松敏道、小川展子
- 「事務局」
- 戸館榮一、大池亜希子、成田昌徳、森田省子

「三月」

濱中常務理事、戸館課長と

東京へ（15日、16日）

①銀座松屋で開催中の春季二科展を表敬訪問

大隈先生はじめ諸先生方にご挨拶。会場は大勢の観客であふれておりました。
②織田廣喜先生宅訪問

今年の当館での春季二科展に、是非御出かけ下さるよう、お願いに訪問しました。織田さんの洒落たパブリックエッセイの絵の全面に溢れ出ている無類の優しさは、お会いしてすぐむべなるかなと理解しました。アトリエに

長年病む奥様と、一心同体の如く付き添われての毎日が、痛いほどに伝わってくるのです。御快諾を得ることができました。感謝です。

③鷹山宇一先生訪問

高らかにお笑いになられ、ますますお元気の様子。試作のビデオをお見せし感想を伺うと、よく調べましたねと、OKをいただく。

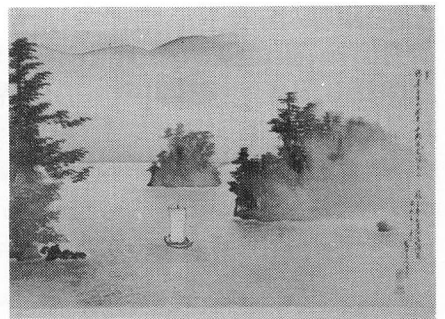
ビデオ「鷹山宇一の世界花と蝶そしてランプ」完成。（15分）（21日）

会員の皆様、美術館にございますからどうぞ御利用下さい。

なお、著作権の関係上販売の予定はございません。

理事会・評議員会（22日）

- ①役員選出
 - ②平成九年度事業計画
 - ③平成九年度予算
 - ④美術資料収集について
 - ⑤画集刊行について
- 県内有志の方より鳥谷幡山の掛け軸（一幅）画帳（一冊）の寄附をいただく。（22日）



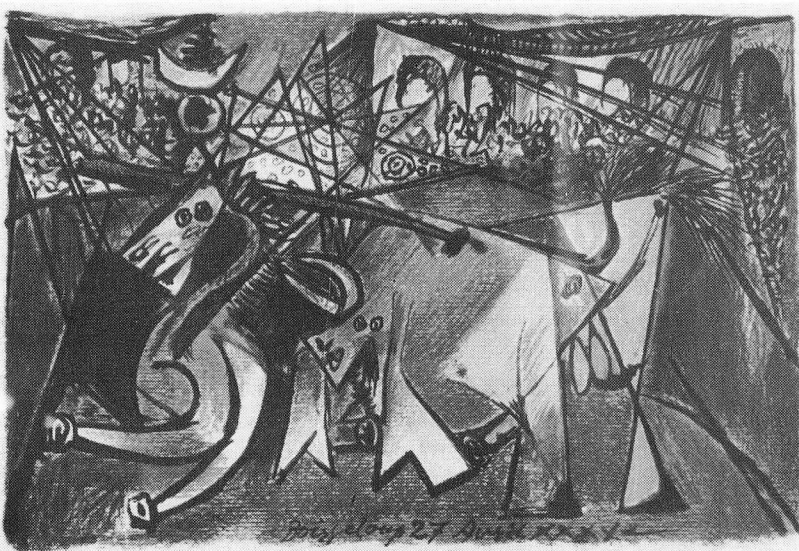
「四月」

画集用写真撮影開始（4月7日）

プロ写真家の久野さん御夫妻・山下さん（秋山スタジオ）がおいでになり、美術館で撮影をしました。

東京で富山秀男先生（京都国立近代美術館館長）とお会いし画集への原稿をお願いする。（10日）

青森画廊千葉龍芳氏からピカソのリトグラフ二点をいただく。（15日）



スペイン民芸資料館で展示中です

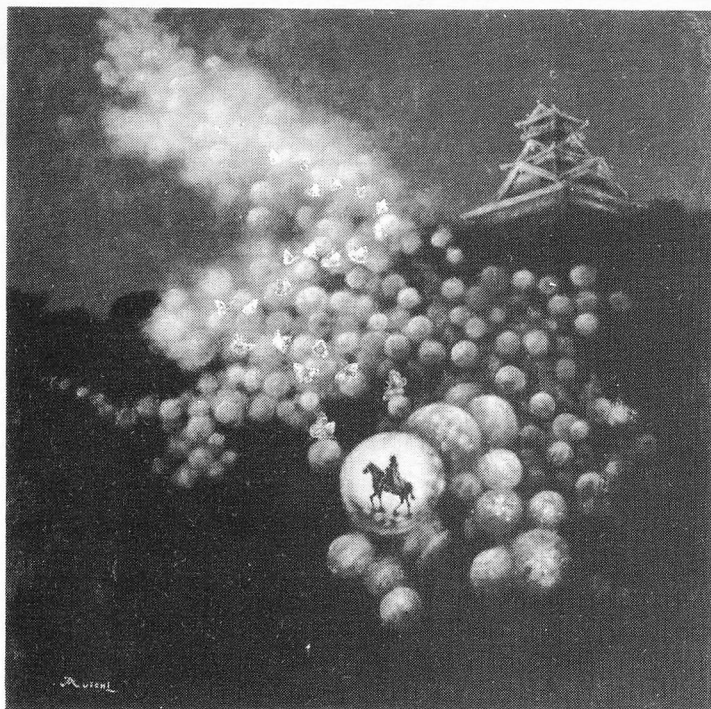
鷹山宇一記念美術館

NEWS & REPORT

1997. 4

vol. 7

一九九七年春季二科展出品 鷹山宇一「古城幻影」三〇号



当館名誉館長・二科会理事
鷹山宇一画伯



鷹山宇一記念美術館は、本年8月1日をもって開館3周年を迎えます。これを記念し、「鷹山宇一画集」を刊行することとなりました。

友の会会員の皆様、また美術館にご来館くださる皆様より要望の高かったこの画集。長らくお待たせいたしました。美術館関係者一同も、心待ちにしていた事業です。

内容は、主に美術館収蔵の作品が中心となりますが、国内美術館、また、各方面からのご協力を得て、鷹山宇一の画業を集大成した画集とします。カラー写真120点程度、モノクロ写真100点程度に、解説・年譜等を加え、合計96ページで構成する予定です。

発行に関しましては、下記のとおり予定しています。

発行予定日

平成9年8月1日

発行部数

2,000部

販売価格

3,000円

なお、友の会会員の皆様には、「友の会入会のご案内」のとおり下記の特典でお分けします。

一般会員

割引価格にて販売します

特別会員(個人・法人)

画集1冊を贈呈

また

ご購入の際には

一般会員と同じく

割引価格にて販売します

皆様どうぞお楽しみに。

美術館からお知らせ

ビデオ

「鷹山宇一の世界」

花と蝶そしてうづ

完成!!

七戸町が平成8年度事業で制作した、鷹山宇一紹介ビデオ「鷹山宇一の世界」がこのほど完成しました。

おおよそ1年をかけて、当館はもとより、鷹山画伯のアトリエ、また、ゆかりの地などの取材を行い、約15分にまとめられたこのビデオは、画家・鷹山宇一が歩んできた創造の過程をたどったものです。

美術館1階ロビーにてご覧いただけます。どうぞご利用ください。

只今、鷹山宇一画集制作中

鷹山宇一記念美術館

特別展の豆知識

会報一面でご紹介のとおり、鷹山宇一記念美術館では本年度4回の特別展が決定しています。

ここでは、その企画のうち次号発行までの間に開催される3つの展覧会について、

鑑賞のガイドになればという思いを込めて、

豆知識を掲載します。

「第57回国際写真サロン」

写真を通じた国際文化の交流と親善を目的として、1893年(明治26年)、イギリスで開かれた国際写真サロンが世界で最初ものといわれています。日本では、1925年(大正14年)、全関東、全関西の両写真連盟が一つになって全日本写真連盟となり、その初めての事業として、1927年(昭和2年)に第1回国際写真サロンが開催されました。国内外、またプロ・アマチュアを問わず、写真表現の可能性に挑戦した作品を毎年募集しています。今展では、審査員特別賞6点のほか、入賞作品124点が全国16カ所を巡回します。

「全日本写真連盟」

略称、全日写連は、1925年(大正14年)に創設された写真愛好家の団体で、朝日新聞社が後援する全国的な組織です。会員は全国で約2万人。初心者からベテランまで、写真が好きなお人であれば誰でも入会できます。写真文化の発展と会員の親睦をはかり、写真を通じて社会に貢献することを目的とし、これを達成するため、写真教室や撮影会をはじめ、写真コンテストやゼミナールなどの地域的活動から、「国際写真サロン」「全日本写真展」「読者の新聞写真」「日本の自然写真コンテスト」「われら地球人フォトフェスティバル」など、全国的・国際的な行事まで多彩な事業を行っています。

「春季二科展」

「造形上の実験的創造に挑んで……」社団法人二科会が毎年3月、東京の松屋銀座で開催しています。1978年(昭和53年)4月に開催されてより、本年で20回目の開催となりました。「熟成度の高い制作発表の場」として、二科会会員・会友のみならず、一般からの入選作品を展覧する秋の本展「二科展」に対し、春季展は、主に二科会絵画部・彫刻部の会員による最新作の発表をしています。地方での巡回展は、千葉県「ザ・クレストホテル津田沼」と当館のみの開催となります。

「社団法人二科会」

1914年(大正3年)、新しい美術の確立を目指し結成された在野の美術団体。洋画壇の黎明期であった当時、フランスに留学していた新進の芸術家たちが帰朝するにおよんで、日本初の官展であった文展(文部省美術展覧会)の審査上、新傾向の洋画家たちはなかなか認められない状況がありました。そこで、日本画部が二科制をとっているように、洋画部も一科=旧派と二科=新派とに分離するよう政府に要求しましたが却下され、文展より独立し「二科会」を結成、独自の展覧会を開催しました。「新しい美術の確立を標榜して……」その自由で革新的な傾向は、現在まで脈々と受け継がれ、多くの芸術家を輩出しています。第二次大戦のため1944年(昭和19年)解散しましたが、戦後、1945年(昭和20年)再建。その後1979年(昭和54年)には、社団法人二科会となり現在に至ります。

「平成9年度 県収集美術資料展」

青森県では、総合芸術パークの開設に向けて、教育庁文化課内に「総合芸術パークプロジェクトチーム」を設置。まずはその核となるべく県立美術館開館を目指し、毎年、美術館に収蔵・展示するための美術資料を収集するなど、その準備作業を着々と進めているところです。この展覧会は、これら収集した資料を展示することにより、その一端を紹介しようというものです。今展は、当館のほか青森県立郷土館、弘前市立博物館で開催されます。基本的に前年度収集した美術資料を中心に、三会場共通する出品内容となりますが、七戸の地域性を考慮し、作品が選定されます。

友の会研修旅行を実施

盛岡郊外のプチミュージアムを訪ねて

御所湖川村美術館

岩手県御所湖畔の川村美術館を識る人は少ないと思う。盛岡北ホテルでふと目にしたリーフレットに誘われて訪れたのが最初である。

展示作品はポーランド・ハンガリー・ロシア等東欧のものが多く、なにより館長の川村ご夫妻は実に気さくなお人柄で、すぐに引き込まれるように尽きせぬ美の世界へといざなってくたさる。

日本の経済が成長し、円が強くなり、逆に東欧の混乱によって東欧経済が力を失い貨幣価値の下落に助けられるといっても、これ程の大量の作品を展示するということは大変なことで、本



業は何でしようかと失礼を承知で尋ねましたら「それは申し上げないことにしている」とのこと。下手な詮索はなしにして、私達が滅多に出会うことのない作品を楽しむことにしましょう。

ロシアのアントノフ・K・Mの「スペイン王室の宮殿」(油彩十二号)は、つかの間の優雅な宮殿生活を画いて、暖かい作者の心が伝わる思いがする作品で、ポーランドのスタシス・E

の「肖像画」(パステル十二号)は一見犬のような感じのするモダン・アートで不思議に印象に残るものである。この時、案内をいただいた企画展は、ポーランドの

リシャルド・ストリエツの「みこ」・「田舎の道」等ペ

ン画のデッサンで、私のみるには非常に水準の高いものであると思っており興味のあるものではないものである。当館の玄関ホールには、両手を大きく広げたような擬人化した鳥のブロンズがあつて私達を迎えてくれます。正面から見ると普通の個人住宅のようにみえるが、以外と奥行きが深く、「カフェ・あう

る」はひば材を張りつめた暖かい部屋でコーヒーはとてもおいしい。メモリアルショップは「あうる」II 梟のグッズが多く楽しめる。文化とは心のゆとりであり、空間のゆとりであり、時間のゆとりであると思う。

その意味で御所湖湖畔のこのプチギャラリーは盛岡市民のゆとりであり、岩手のゆとりである。大きくても内容の雑多な美術館もあるが、小粒ではあつても明快なコンセプトを持つていることが伝えられる。

東欧の作品を中心に私達の殆ど目にするのではないものを紹介し、特に企画展では意

欲的に、一般にあまり評価されない作品を紹介する館長の姿勢を高く評価したい。

盛岡市郊外の御所湖周辺の開発は素晴らしいもので北上水系の洪水調節を目的とするダム建設を機会に、湖畔一周のサイクリングロード・スイミングセンター・ヨットハーバーあり、森林公園ありで、更にはかの

「手づくり村」もその一環であることはいままでもない。雄大な岩手山が湖面にその姿を写し、ホテル街のロケーションは素晴らしい景観で、つなぎ温泉街の水

準は残念ながら到底本県の及ぶところではない。船越保武先生の「シオン」の像も繫大橋を渡りきつた湖面にその清涼な姿を見せるのです。近隣の大スキー場群と相まって、御所湖周辺は全体として有機的なつながりをも

ち一大観光拠点を形成しておりその構想力には脱帽するばかりである。こうした背景の中にこの「川村美術館」は立地しているのです。このプチギャラリーがいつまでも私達の手中にあることを願うや切なるものである。

ホールのアダム・マチエイコフスキー「小鳥」の不思議な暖かい手が私達の来訪

を待っているかのようで、是非皆様が一再ならず訪れることを願います。

(同館へのお訊ねは〇一九・六九二・五九三ーまで)

深沢紅子野の花美術館
盛岡市内中津川河畔に平成七年九月にオープンした「深沢紅子野の花美術館」があります。

深沢紅子さんは明治三十六年に盛岡市に生まれ、盛岡高女から女子美術・日本画科へ。のち油絵科へ転じ、岡田三郎助に師事。卒業後、同郷の画家深沢省三氏と結婚、生涯「野の花」を精力的に画き、美術館の完成を待ちながら、夫君の他界一年後の平成五年三月、九十才の生涯を終えることとなりました。館内には、生涯のテーマであった野の花・

からす瓜・さざん花・あけび・てっせん・雑木の実・忘れな草等の水彩画。一階はティールームとグッズの販売を行っており、二階・三階が展示ルームとなっております。

この美術館は深沢紅子さんを敬愛してやまない多くのファンの人々が、力を尽くして建設したものです。エッセイストでもある館長の志賀かう子さんは本当に魅力あふれるお人柄で、美術館建設の道のりを御話してくださいました。

現在の組織は、三十八人の社団法人で、一人年額五万円の会費を拠出して運営されているとのこと。建設費は約一億三千万円で盛岡市が七百万円、岩手県が二百万円を助成し、他は美術館を創る会の皆さんが、レンガ一個運動を展開し、幾度かの挫折を乗り越えて、全国に広がる協賛を得てついにオープンにこぎ着けたものです。このようにして、本当に市民による手づくりのユニークなプチ・ミュージアムとして姿を現したのです。

(同館へのお訊ねは〇一九・六二五・六五四ーまで)

戸館昭吉
(美術館理事)



志賀館長さんより
ご説明をいただく

芸術雑感



「馬の画」展を見て

高田 雨草

上泉さんと聞くと、かなり昔になるが、上泉邸の前を通ると玄關を上がった所に、馬の絵の衝立がいつもあったなあと思ひ出す。

そして今からおよそ二十余年前、濱中幾治郎氏邸に上泉氏の描いた襖絵があることを教えて下さった人があり、しかも水墨画であるということから、私は是非拝見したかった。しかし、それまで全く交流のない私であつたので、人を介して拝見の機会をつくつていただいたことも思ひ出す。

一時間くらいお邪魔をして、画の他に建築の立派さについていろいろな事を感じさせられたものだ。

この画は、奥羽牧場に遊ぶ馬を描いたもので、七枚の襖に続けてひとつの絵になつてゐるのにはまず驚いた。遠景に八甲田を配し、広大な牧場の風景がよく表現されていて、みごとに大作と思ふ。これほどの画を描いた画家は、チャンスを与えられたことを幸せに思つたであらうし、それを生

活の場に実際に今なお、使用しておられる濱中邸もまたさすがという他ない。

折あるごとにこの画を話題にして来たが、久し振りにこの画に逢えるかもしれないと、期待して美術館に行つたが、残念なことにそれは無い。

あの襖はもう無いのかなと思つたので、突然で失礼とも考えたが、濱中邸を訪れてみた。襖は健在でうれしかった。しかも二十年前に見たときよりもなお一層よく見えた。

それは何故か、と考へてみると、水墨画を二十年ほど勉強してみた私だが、襖絵特に枚数の多い場合の構図や墨色の変化などのむずかしさ、を体験しているからかもしれない。

上泉氏の数多い画のなかでも、これは私にとって心に残る名画である。

幸いなことに濱中邸に入ることでの方々は、心して鑑賞してみたいし、出来れば、再び馬の画展の開かれるときは、家宝のひ

とつではありましようが、公開していただければありがたいと思つている。

また、馬の画といえど野沢如洋を思い浮かべる。如洋は弘前市出身の水墨画家で馬の画を得意としたといふ。私はかねがねこの人の描いた芭蕉を見たいと思つてゐた。幸いにも一昨年

青森市の郷土館において展覧会があり出掛けてみた。馬の画は、大作や小品、多く展示されていたが、私は小品の、流れるような線度がいいと思つた。

新聞では大作の馬がよいと評価していたが、私なりの批評が許されるならば、あまりにもリアルで水墨画としての省略が欲しいように感じた。

この郷土館では、如洋の画をかなりの数、所蔵している。

華陽の馬、如洋の馬その他の名画を一堂に集めての展示が出来たら、と期待するものである。

美術館友の会理事
高田水墨画館館長

会員登録の更新について

会費規程

(規約第五条)

鷹山宇一記念美術館友の会は平成六年十一月に設立されましたが、四月一日より平成九年度(三期目)の活動期間に入つております。(友の会規約は会報第一号に掲載しております)

会員の皆様には引き続き会員登録を更新のうえ、美術館の事業への協力および相互学習に取り組んでいただくと思ひます。

会員の種別および会費はこれまでと同様ですので、よろしくお願いいたします。

なお、更新手続きは美術館において行つておりますが、七戸郵便局に口座を開設し振り込み用紙を発行していただきました。振込用紙は別途郵送いたしましたので、直接来館できない方はどうぞご利用ください。

さらに、複数年度分を一括で納付される方には割引制度を適用いたします。詳しくは美術館にお尋ねください。

今後とも友の会ならびに美術館に対してご理解・ご協力をお願い申し上げます。

※一般会員
年額三千元

特典
無料入館券送付
入館料・ミュージアム
グッズ割引
研修会・講演会・会報等の連絡

※特別会員(個人)
年額一万元

※特別会員(法人)
年額二万元

特典
会員証提示により入館
無料

個人は本人と同伴一名
法人は本人と同伴三名
ミュージアムグッズ割引
研修会・講演会・会報等の連絡

備考 更新手続期間は前年度の一月から三月まで、四月以降は翌年の三月までが有効期間となります。

お問い合わせは美術館(6215858)まで

昭和十二年六月没

野澤如洋

(のざわ・じょよう)

一八六五年(元治二年)弘前生まれ 画家三上仙年に就き画法を学ぶ。

京都に在任し各種展覧会に出展、入選を重ねる。

大正八・九年欧米を周遊

昭和五年より東京に在任し活躍。